



自分らしい生活のために 認知症—早期診断、早期治療で大きな効果

認知症は、昨今の研究によって治療やケアで症状の進行を遅らせることができる、ということが分かっています。」「老化現象だから…」とあきらめず、早期にかかり付け医にご相談ください。必要に応じて専門病院で診断を受け、治療することで、その人らしい暮らしを続けることが出来ます。

女優の樹木希林さんが認知症のお

ばあさん役で登場して、家族でおばあさんの誕生日を祝っているテレビ「マーシャルを最近よく見かけます。年齢を重ねると「人やものの名前が思い出せない」とよく聞きますね。これを一般的には物忘れといいますが、しかし物忘れと、よく「ぼけ」と表現する認知症とは、まったく違うものです。

物忘れは加齢に伴い記憶の力、思考の力などが衰え鈍るからです。

一方、認知症は正常に機能している脳が障害に陥り、知能が低下する状態です。加齢に伴って単に物覚えが悪くなる、物忘れする、というのではなく、病的にさまざまな能力が低下します。

その症状は、「知能」の低下、「記憶」「見当識」を含む認知障害であり、人格が変わってしまつこと

もあります。

アルツハイマー型認知症でも治療の選択肢が広がってきた

認知症患者の約6割を占めているのは「アルツハイマー型認知症」です。「アミロイドβタンパク」という物質が脳に蓄積して脳の神経細胞が減っていき、脳の萎縮が進行することで記憶を保てない、認識できない症状などが出る病気です。

認知症の中でも「アルツハイマー型」「レビー小体型」「前頭側頭型」など後天的な変性疾患は、まだ根本的な治療法がありません。しかし、症状の進行を遅らせることが出来る治療法が見つかってきました。

昨年1月から「ガランタミン」(商品名「レミニール」)、「メマシタン」(商品名「メマリー」)と

いう2種類の新薬が治療薬として保険適用が承認され、治療の選択肢が広がっています。

同様の物忘れ症状を示す状態の中で、「脳血管性認知症」「正常圧水頭症」「硬膜下血腫」「ビタミンの代謝・栄養障害、甲状腺機能低下などの病気は根本的な治療が可能です。一般的に「物忘れ」と表現される状態には、老化現象として記憶力や思考力が鈍くなる状態と、認知症という病気の状態が混在していると考えられます。

一般に「年のせいだから」と簡単に片付けがちですが、病状によっては、早い段階の治療で症状の進行を遅らせ、または緩和治療することが可能なのです。

お心当たりがありましたら、早いうちにかかり付け医に相談し、必要に応じて認知症の検査、専門医によ

る診断、治療を受けましょう。

町地域包括支援センターは、介護保険や福祉サービスに関する相談窓口です。物忘れがある方のご家族、ご本人からのご相談も受け付けています。

(社) 認知症の人と家族の会(東京)は「家族がつくった『認知症』早期発見のめやす」を作っています。会員家族の経験で認知症と思われる行動や言動の実例を掲載しています。参考にどうぞ。

◆家族の会がつくった「認知症」早期発見の目安

▼しまい忘れ、置き忘れが増え、いつも探し物をしている▼財布、通帳、衣類などを盗まれた、と他人を疑う▼料理、片付け、計算、運転などのミスが多くなった▼約束の時間や場所を間違える▼慣れた道で迷うようになった▼些細なことで怒りっぽくなった▼下着を替えず、身だしなみを構わなくなった▼趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった▼ふさぎこんで何をするのも億劫がり嫌がる一など。

参考文献・認知症「いつしよがいね」を支えるガイドブック(第一三共(株)刊)、公益社団法人「認知症の人と家族の会」ホームページ